

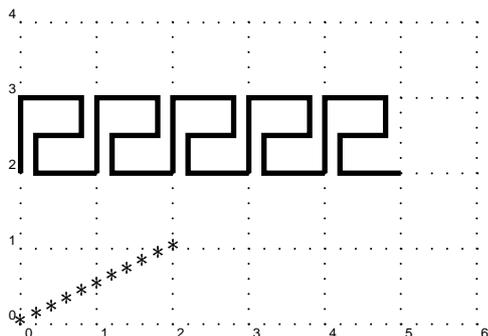
今回は繰り返しについて学びます。

同じものを線分に沿って等間隔に並べるには`\multirput` を用います：

`\multirput`[基準点]{角度}(x0,y0)(x1,y1){繰り返しの回数}{並べるもの}
(x0,y0) が最初の出力を行う位置、(x1,y1) がずらすベクトルを表します。

例：

```
\multirput(0,0)(0.2,0.1){11}{*}  
\def\uzu{\psline(0,0)(0,1)(0.8,1)(0.8,0.5)(0.2,0.5)(0.2,0)(1,0)}%  
\psset{linewidth=2pt}  
\multirput(0,2)(1,0){5}{\uzu}
```



`\uzu` の定義の行末の%を省略すると、出力位置がずれるので注意しましょう。

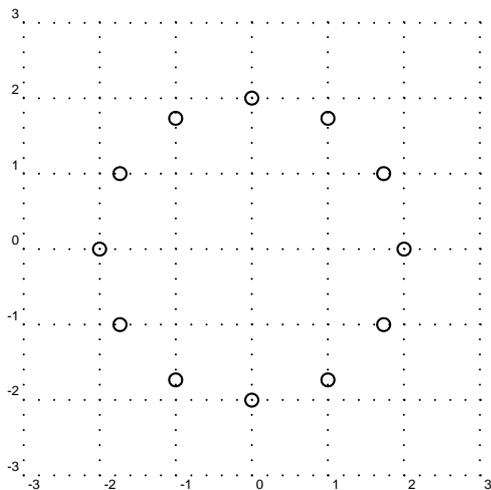
それ以外の場合には`\multido` を使って工夫しましょう。

`\multido`{\var1=初期値+増分,\var2=初期値+増分, ...}{回数}{繰り返すグラフィックの指定}

- ループ用の変数名は、n で始める。整数値なら i で始めるとやや速くなる。
- 増分が負の時は `\n=0+-1` のように指定する。

例：

```
\multido{\n=0+30}{12}{%  
\rput{\n}{\rput(2,0){\pscircle{0.1}}}}
```



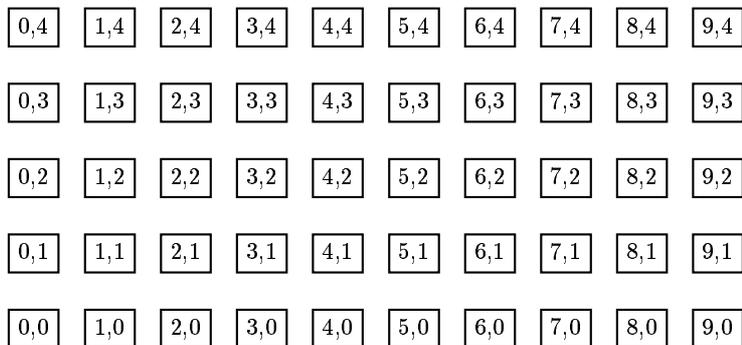
例 :

```
\multido{\i=0+1,\n=0+.1}{11}{%  
  \newgray{mygray}{\n}  
  \psset{fillstyle=solid,fillcolor=mygray,linewidth=1pt}  
  \rput{\i,0}{\psframe(0,0)(0.8,0.8)}}}
```



例 :

```
\pspicture(-0.4,-0.4)(10.4,5.4)  
\multido{\ix=0+1}{10}{%  
  \multido{\iy=0+1}{5}{%  
    \rput{\ix,\iy}{\psframebox{\small \ix,\iy}}}}
```



おまけ

